

授業科目名		担当講師名		対象学年	
基礎看護学 診療の補助技術・与薬		糸 ふじ代		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(22)	教室・実習室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	与薬の意義 看護師の役割 与薬方法の理解・演習				
到達目標	与薬の援助技術の基本を学び、安全な与薬の方法が実施できる。				
事前学習	与薬に関する法律 与薬の 6 R 薬物の作用吸収経路				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	第 9 章 与薬の意義と看護師の役割 法律 薬の管理 (毒薬、劇薬、麻薬の管理)
2	与薬の種類と吸収排泄経路 医療事故
3	経口与薬法 点眼法 点鼻法 塗布・塗擦法 坐薬法 (グループ学習発表)
4	グループ発表後の演習 与薬の実際 (3 回 6 R ダブルチェック) 坐薬法
5	注射法の種類と方法 注意を要する薬 与薬の計算
6	注射器の準備 アンプル詰め 皮下注射の実際
7	筋肉注射のデモンストレーション 演習
8	筋肉注射の演習 (注射部位の選定)
9	筋肉注射の演習
10	実技試験
11	終講試験
履修上の要件	専門基礎分野治療論Ⅰにおいて、薬に関する基礎的知識を身につけている。 基礎看護技術安全安楽で無菌操作の技術を修得している。
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座専門Ⅰ 基礎看護学技術Ⅱ 医学書院、 新体系看護学全書 基礎看護技術Ⅱ メジカルフレンド社 看護技術プラクティス 学研
成績評価の方法	グループ学習発表 筆記試験
備考	検査と併せて 1 単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
基礎看護学 診療の補助技術・検査		根本 洋子		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	(23)	2 年生教室 実習室	前期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義				
学修内容	検体検査と生体情報のモニタリングの種類・意義・重要性 診察・検査・処置を受ける患者の看護 採血に必要な看護技術				
到達目標	検査値・生体情報から患者の状態をアセスメントすることを理解する 診療を補助する上で安全・安楽、正確な情報を得るための援助を学ぶ 検査を受ける対象の心理を理解し、安全・安楽の援助を学ぶ 採血の看護技術が安全・安楽に実践できる				
事前学習					

授業計画

No.	授 業 内 容
1	臨床検査の目的・種類、検査における看護師の役割
2	検体検査と看護① (尿・便・喀痰・胸水・腹水・髄液・骨髄の目的、採取方法、注意点)
3	検体検査と看護② 検体検査に必要な検体スピッツの各種、尿試験紙を用いての演習
4	生体検査と看護① (心電図・X線撮影・コンピューター断層撮影CT・磁気共鳴画像MRI・内視鏡検査・超音波検査・肺機能検査スパイロメトリー・核医学検査)
5	生体検査と看護② 十二誘導心電図、動脈圧観血モニター、穿刺体位の演習
6	血液検査の目的と方法 (静脈血採血、動脈血採血、簡易血糖測定)
7	シュミレーターによる採血法 駆血方法演習
8・9	採血実技演習
10・11	採血実技試験
12	終講試験
履修上の要件	診療の補助技術<与薬> 注射の実技演習を修得
テキスト、教材、 参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学【3】医学書院 新体系看護学全書Ⅱ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰメヂカルフレンド社 看護技術プラクティス 第3版 学研 臨床検—系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 演習に必要な各種実習教材 物品
成績評価の方法	筆記試験
備考	診療の補助技術・与薬とあわせて1単位とする。

授業科目名		担当講師名		対象学年	
臨床看護技術		池田 恵子・脇田 真由美		2 年次	
授業形態	単位 (時間)	教室等	学期	曜日	時限
講義・演習	1 (45)	教室・実習室	前期～後期	不定期	不定期
実務経験	本科目は、看護師として実務経験のある教員による講義。				
学修内容	主要症状のある患者の事例についてグループ学習を行い援助計画を立案し、発表（プレゼンテーション）を行う。発表内容について他者評価を行い、技術の振り返りと共通理解をする。				
到達目標	健康障害を持つ対象を理解し、主要症状・治療処置等の状態に応じて、根拠をふまえた看護技術を適応する基礎を習得できる。				
事前学習	発熱、疼痛、呼吸困難、浮腫、易感染、出血傾向、麻痺、骨折、排尿困難				

授業計画

No.	授 業 内 容
1	講義：発熱、動悸、呼吸困難、易感染の患者 課題の事例紹介
2	GW：事例学習・計画立案
3	上記患者のバイタルサイン測定演習
4	・発表（4 グループ）事例の理解と技術の発表および評価
5	講義：痛み、浮腫、出血傾向の患者 課題の事例紹介
6	GW：事例学習・計画立案
7	上記患者の足浴及び更衣演習
8	・発表（4 グループ）事例の理解と技術の発表および評価
9	講義：咳・痰、嚥下障害、悪心の患者 課題の事例紹介
10	GW：事例学習・計画立案
11	上記患者の口腔ケア・安楽な姿勢の演習
12	・発表（4 グループ）事例の理解と技術の発表および評価
13	講義：麻痺、骨折、貧血の患者 課題の事例紹介
14	GW：事例学習・計画立案
15	上記患者の車イスへの移乗・ポータブルトイレでの排泄演習
16	・発表（4 グループ）事例の理解と技術の発表および評価
17・18・19・20	排尿困難のある患者の援助 一次的導尿・膀胱留置カテーテル演習、学生間での技術チェック
21・22	技術試験
23	終講試験（筆記試験）
履修上の要件	基礎看護技術の共通基本技術Ⅰ・Ⅱ・日常生活援助技術・ヘルスアセスメントが終了していること。
テキスト、教材、参考書	基礎看護学別巻 看護技術の患者への適応／メヂカルフレンド社 症状別看護過程の展開、看護技術プラクティス／学研
成績評価の方法	筆記試験、実技試験
備考	